



# 山口県無形民族文化財『サイ上り神事』



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

## 産土



彦島八幡宮社報  
第 39 号



## 神輿

神霊を奉じて

神社では一年を通し、様々な祭りが執り行われている。●「わっしょい、わっしょい」という言葉から何を連想されるであろうか。多くの人は神輿（みこし）を担ぐ掛け声であると察しがつくであろう。●神輿が練り歩くことを正式には神幸祭（しんこうさい）といい、「神様のお出まし」をあらわす言葉である。●神輿の起源は諸説があるが、天平勝宝元年（七四九）に宇佐神宮の神霊を輦輿（れんよ）とよばれる屋根に金色の鳳凰が輝く輿にお乗せした事が神輿を用いる習俗の起源ではないかと伝えられている。天皇様をはじめとする高貴な方が用いた乗り物であったことがうかがえる。●当宮では神輿が発興する祭りが年に二度斎行される。夏越祭と例祭である。●夏越祭は氏子区域内を限らず神幸する。以前は数日かけ練り歩いていたが、現在では自動車の荷台にお乗せし神樂を奏でながらである。中でも、クライマックスとして神輿を御座船（\*二艘の連結船）にお乗せし海上を往く海上渡御（かいじょうとぎよ）は西日本最大規模である。●一方、例祭では、発興して正参道の終点にある御旅所を折り返し還幸するまでの間、担ぎ手は掛け声無く、厳かに並足で歩く。神輿を揺らさない平担ぎと呼ばれるものである。同じ御神幸祭でも形態が異なる。●一般的には神幸祭は大きく二種類に大別される。「王朝型神幸祭」天皇の行幸を模し、鳳輦型の神輿に御霊を奉じる」と「日吉型渡御祭」神輿を激しく振り動かし神の霊威を高める」である。●当宮の二つの神幸祭は前者の「王朝型神幸祭」といえる。後者の「日吉型渡御祭」は大坂岸和田のだんじりの引きまわしが有名である。●ともあれ、一社故実そのままに、多種多様であるが神様をよるこばせたいと願うにわかりはない。神幸祭は全ての人に神様の恵みを行き渡らせようとする祭りであるといっても過言ではない。●古来よりご守護いただいている神々に対し出来得る限り、誠心誠意祭りに奉仕してきた。感謝とおもてなしの真心を込めて。神幸祭もその一つである。先人たちは人間にとって最上の楽しさが神様をよるこばせる、楽しませると考えてきたのである。●現在、当宮では神輿の担ぎ手はもとより祭りの担い手すら人手不足で減少の一途を辿っている。しかし、氏子崇敬者がありとあらゆる自然の恵みを神様に感謝する気持ち（おかげさま）がある限り、祭りは廃れることなく後世へしつかり継承されることと信じてやまない。





# 宮司プレス総集編

※平成22年上半年(2月~5月)発行分を総集編としてお届けします。掲載紙面の都合上、中略しています。全文ご覧になりたい方は八幡宮ホームページへアクセスください。

## 第四十五号(平成二十二年二月発行)

◇今月は、二十八日しかなく、短い月ではありますが、最も重要なお祭りが三つあります。一つは、二月三日の節分祭。昨年、一昨年と悪天候で、特設の舞台から「豆まき」をする事が叶わず、残念でありましたが、今年は凍てつく寒さではありましたが、晴天で沢山の参拝者と厄をはらい、福を分かちあう事が出来ました。

◇もう一つは、二月十一日の建国祭。

神武天皇即位を元年として今年で紀元二六七〇年、日本の国の建国をお祝い申し上げます。昨今は、西暦が世界の共通の時間座標(じかんざひょう)ですが、日本人の時間座標である皇紀、神武天皇即位を紀元元年と定めた、この紀元二六七〇年という悠久(ゆうきゆう)の長い時間の事)の歴史を意識すべきだと思います。さらには、天皇陛下や皇室の方々と時間を共有できる、平成・昭和・大正・明治といった元号(げんごう)も、大切に次の世代に引き継いでいかなければという思いを込めて、建国祭を奉仕させて頂きました。

◇そしてもう一つ忘れてならないのが、祈年祭(きねんさい)、としごいのまつりともいいます。二月十七日に執り行われていますが、本年当宮では、今月の二十一日の日曜日に執り行う予定です。毎月二十一日は、彦島八幡宮の縁(ゆかり)の深い日、忘れてはならない日です。それは、一年に一度の例祭を行う日が十月二十一日で、最近は二十一日に近い日曜日に例祭を執り行っているからなのです。毎月二十一日の早朝に、朝粥会を行っているのも、縁の日を決して忘れない為の一環です。

◇「年一は、「稲」の事ですから、年を祈るといふ祈年祭は、「稲の豊作(いねのゆか)」「稔(みの)り」の秋を祈るお祭りです。しかも、「稔り」は「稔(ねん)」と読む事が可能で、「年(ねん)」にも通じるのです。難しく申し上げると、祈年祭は、「予祝(よしゆく)」のお祭りです。「さうと今年の秋は、神様の御加護によって豊作になるに違ひありません。そのようになりませう皆で力を合わせ努力します、どうか神様お守り下さい。」という、あらかじめお祝いをし、神様とお約束をする、お誓いをする祭典であります。そして、稔りの秋を迎えて、神様の御加護により無事に収穫を迎えた事に感謝するお祭りが、「新嘗祭(にいなめさい)」であります。

◇あらかじめ目標を神様にお約束して、実現が出来るよう誓いをし、その道のりには神様の御加護と大きな恵がある事を信じて、力を出し切れるよう努力する、これが、我々の御先祖様が大事にされてきた「祭政一致(さいせいいつち)」の営みです。

祭りと生活の一体化、まさに、「神様とつながった生活」です。

◇今月二十一日の祈年祭では、午前十時半からの神事後、私が、一時間の神道講演をさせて頂きます。実は、私事で大変恐縮ですが、昨年九月に山口県神社庁の教化講師会の講演講師検定試験を受験しました。これまでは、講師補という肩書きを頂いていますが、この程、検定試験に合格、昨年の十二月十七日付けにて、講演講師の委嘱を受けました。沢山の方々の御陰ですし、拙(つたな)いお話に熱心に耳を傾け、激励してくれた方々の賜物です。心から感謝申し上げます。講演講師に委嘱されてのデビュー戦が、このたびの講演となります。御期待に添えるよう講演します。その後、参加の皆様と、朝粥会ならぬ昼粥会を催し、「小豆粥(あずきがゆ)」を食します。どなたでも参加出来ます。御参加お待ち申し上げます。

◇二月は、別名如月(きさらぎ)といいますが、私のように寒いから厚着をする、衣を重ねるからではありません。「キヌサラギ」「キクサハリツキ」、春となり、禽獣(きんじゅう)と読み、動物の事です。や植物の命が新たに芽生える意味です。大変厳しい時代ではありますが、誰にでも分け隔てなく朝は必ず訪れ、朝日が差し込み、春がやってきます。きつと成功する、成就する事をイメージし、その夢が叶うよう、澄み切った心で感謝を捧げ、御加護を仰ぎながら、朗報を待つ、そのような敬神生活を心がけたいものです。

## 第四十六号(平成二十二年三月発行)

◇皆さん、一昨日の夕食の献立を瞬時に思い出す事ができますか。なかなか思い出せない人は、かなり「健忘症(けんぼうしょう)」が進行しているようですね。実は、最近、若い世代で健忘症、「若年(じゃくねん)健忘症」が増加しているそうで、その大きな原因は、会話の減少だそうです。会話とは、相手の表情の変化を読み取って、その声を聞き、話された内容をよく理解した上で、それに適した返事を探し、自分の意見を声に出して言うという一連の作業であつたという間に、瞬時に行うものです。この何気ない一連の瞬時の作業が、脳を活性化させるのだそうですよ。そこに、相手への優しい気づかいや思いやりがあつたり、探りや駆け引きなどの感情、いけない事ですが嘘をつく等の計算があれば、さらに活性化する事でしょうね。

◇高度な情報化社会になり、テレビ、ゲーム、携帯電話、パソコン等の普及により、顔を合わせて言葉をお交す機会が減少し、その結果として前述の「若年健忘症」が増えたそうです。研究者によると、一日でトータル十七分の会話をすれば、健忘症の処方箋になるそうです。言い換えれば、現代人は、顔を見て、声を聞いて、言葉を発する一日十七分程度の時間、その時間すらも持っていないという事になりますね。インターネットで地球上の隅々と二十四時間つながっているが、身近な人との会話もままならない、まさに「孤独な数字」ですね。

◇実は、江戸時代の商人の家では、子供に挨拶を励行させる事は当然ですが、その挨拶の後に、時候の話をしよう(しつけ)たそうなんです。例えば「今日は、風が強いですね」とか「昨日は雨がよく降りましたね」とかです。その時候の話から商売の話に結びつく事もあつたそうなんです。少子高齢化が世界最速で進んでいる我が国、これは、量の問題ですよ。内需にも限界がありますが、「質を高める」という事が多少なりとも、内需の拡大に向けてのキーワードになるかも知れません。日本人が古来大事にしてきたきめ細やかな気配り、その為にも江戸時代の商人ではありませんが、日々のたわいもない会話が大事なような気がします。

◇「人は話し方で九割変わる」という本を書かれた福田健さんは、初対面の人との会話の話題のキーワードを、「たちつとなかにはいれ」と説かれました。左の通りです。

た 食べ物、ち 自分自分の住んでいる地域や地元、つ 通勤や通学、て 天気、と 富で経済情勢や景気、な 名前や地名、か 体、健康の事、に ニュース、は は やりものやトレンドやブームなど、い 異性の事、れ レジャーです。三月は、別れと新しい出逢いの季節でもあります。「たちつとなかにはいれ」の会話を弾ませて、新しい仲間と、円滑な人間関係を築きたいものです。

◇人の心は、目に見えませんが、その人の心を形に表したものが、言葉です。「言葉(ことだま)」といふ、言葉に魂が宿るものですよ。何気ない言葉が、相手の心を傷つけたり、その一言で新たな人生が開けたり、元気な力を取り戻したりですね。私は、神様へ捧げる言葉である「祝詞(のりと)」や、亡くなられた人を送る葬祭(そうさい)の祭詞(さいし)である詠詞(いし)、しのび(ことば)の作文を大切にしています。それは、真心を神様に捧げたいと思うからです。

◇四月から、新年度、新学期です。新しい出発をする方もいらつしやることでしょう。私事でありますが、長男も大学進学で、神風渡る(伊勢にかかると)。伊勢の地で一人暮らしです。「ああ無情」の作者である、ナポレオン治世時代の作家である、ピクトル・ユーゴさんは、未来は、弱き者には不可能、臆病者には未知、思慮深く勇敢なものには理想という名を持つという言葉を残しています。厳しい時代ではありますが、日々神様へ言霊の祈りをささげつつ、前向きに、明日からの生活が、高き理想という名の未来になるよう努力したいものです。皆様方の御活躍御健勝を心からお祈り申し上げます。

第四十七号 (平成二十二年四月発行)

◇今年も、境内の桜の花は、三月下旬の台風の到来かと思わせる雨風にも花びらを散らさず、実に見事に咲き乱れました。本来ならば、やわらかい日差しに木々の新緑も目に鮮やかに、季節が移ろうはずでありませんが、四月も下旬というのに、「寒いですわね」という言葉を発しています。野菜等が値上がりしたり、穀物や獲れる魚にも影響が出ているようですね。「ネイチャー クライシス 大自然の危機」なのでしょう。か。「となりのトトロ」のアニメ製作で知られている宮崎駿(みやざき はやお)さんは、「日本の大切な自然を後世まで永遠に残そうと考えるなら、そこを神社にするしかない」とおっしゃられました。神社の「社」は、実は、「杜(もり)」の事でありますので、鎮守の杜としてふさわしい境内、特に、樹木を大切にしなければならぬという思いを新たにしています。

◇季節は、確かな順序に従って移るものです。満開の桜も、いつまでも咲き続けるわけではなく、また、すぐに散るでもなく、ちょうどよい時機(じき)を得て、無心に散っていきます。しかし、人の生命は、確かな順序に従っているわけではありません。多くの人は、人間の死は前からやってくるものではなく、遙か彼方(かなた)からやってくると思つています。なるだけ、「人は必ず死ぬ」という現実を受け入れることを遠ざけているようです。しかし、死は昔も無く背後から迫っているものなのです。人は誰も「死」があることを知っていますが、不意に死はやってきます。まさに、恐怖です。遠浅(とおあさ)の海で沖にある干潟(ひがた)が見えていても、足もとの磯から潮が満ちてくるようなものです。実は、これは、「徒然草」の、「四季は、なほ、定まれる序(ついで)あり。」で始まる第百五十五段の「節」です。

◇前述の「徒然草」には、「死期(しご)は序(ついで)を待たず。」と続きます。三月のある日、友人の訃報に接し、突然、避けられない現実を突きつけられたわけですね。

◇このような、さけられない恐怖を未然に防ぐために、我々のご先祖様は、「人は必ず死ぬ」という事を真正面から向き合い、その結果として、人間の生き方の作法を編み出したと思うのです。生き方の作法とは、死を見つめて生きていく、まさに「メメントモリ」なのです。作法の本質は、物事の本質やその本質に含まれる様々な条件や働き、動きや表現をよく観察し多くの智慧を絞り、工夫し、練磨し、伝統や文化、教養や品格を凝縮した、優れた智慧なのです。思想、哲学、道徳、宗教、これらも人間の作法を構築するための優れた智慧そのものです。従って、人間には人間として生きる作法が、心には心の作法、仕事には仕事の作法、人間同士には人間同士(コミュニケーション)の作法があります。さらには、人間と大自然、人間と動物、人間と植物にも作法があるのではないのでしょうか。人間に課せられた最も基本的な「掟(おきて)」ともいえるでしょう。この人間の作法が崩れれば、利害や得失のみを求める無作法で、軽薄な自己流になってしまいます。人との接し方も、作法があれば「気配り、目配り、思いやり」ですが、無作法であれば、「わがまま、気まま、そのまんま」になってしまいますし、自然、動物、植物との作法が無作法ですと、前述の「ネイチャー クライシス」も深刻になることでしょうね。

◇四季は、「徒然草」にも書かれているように、確かな順序に従って移るものですが、「仁義」で成り立っています。「仁」は、思いやり、「義」は筋道の事です。「きれいな桜の花がいつまでも咲いていて欲しい」と思う心、これが「仁」です。しかし、花が散らないと夏が来ないし、緑の葉が枯れて色づかないと秋が来ない、その葉が散らないと冬が来ない。次なる季節が来るために己を犠牲にする、これが「義」です。「武士道」を書かれた新渡戸稲造(ことべ いなぞう)さんは、作法の基本は、義と仁の心だと説かれています。

◇自然が確かな順序に従い、人として避けられない「死」への恐怖を未然に防ぐためにも、作法の基本である「仁」と「義」の心で生活したいものです。

御自愛をお祈り申し上げます。



第四十八号 (平成二十二年五月発行)

◇御神殿(ごしんでん)の手前の幣殿(へいでん)という建物の西側に神饌所(しんせんじょ)があります。神様へのお供え物を調(ととの)えるところですが、そのすぐ脇の「藤の花」、今年も、うす紫のきれいな花を咲かせました。戦国時代に豊臣秀吉の軍師(ぐんし)として活躍した黒田官兵衛、後の黒田如水(じよすい)は、織田信長に反旗をひるがえした親友の荒木村重の説得に向いましたが、逆に捕らえられ、足も伸ばす事が出来ない狭い牢屋(ろうや)に幽閉(ゆうへい)、閉じ込められています。その苛酷(かこく)な状況下の中、小さな窓から見えた藤の花に活路を見出し、やがて秀吉公の天下取りや関ヶ原の合戦でも東軍として活躍し、勝ち組を歩む事となるのです。そんな事を思い出させてくれた見事な神饌所の藤の花です。

◇五月五日は、塩浜町の塩釜神社(しおがまじんじゃ)の例祭でした。江戸の中期頃まで、塩田開発が盛んに行われ、その守護神として塩釜様がまつられたのです。

◇月給の事をサラリーといいますが、これは、塩をラテン語で「サルト」と言つて、海から遠いヨーロッパの人々は、塩がなければ暮せませんが、これは、塩をラテン語で「サルト」と言つて、海から遠いヨーロッパの比較的海岸線に恵まれていますので、塩を精製する事が可能でした。塩よりも碌(ろく)、お米が、サラリーの代わりだったようです。遠い昔の石器時代は、塩分を沢山含む木の芽や動物の塩辛い内臓を食べ、人の生活に欠かせない塩を補充していました。今でも、アラブ系の人は、塩を撰(と)らずに羊の内臓を食べて塩分を摂取(せつしゆ)しています。ところが、弥生時代に稲がもたらされ、お米が主食になると、お米は、完全無塩の「でんぶん食」である事から塩が必要となりました。昔から、生活費の事を「米塩の資」というのは、われわれ日本人の生活に、お米と塩が欠かせないものだったという証(あかし)でしょうね。毎日の食事の調味料としても欠かせない塩です。塩加減というのが、主婦の腕のみせどころですね。

塩辛(しおから)いものを多く摂取すると、高血圧を引き起こし、脳梗塞(のうこうそく)や万病のもとになるからです。高血圧が「サイレント キラー」沈黙の殺人者といわれている所以(ゆえん)です。

◇家(いえ)は、もともとは、「居る籠(いるかご)で、「へ」は語源としては、「ヒ」の変つたものだから、火を焚(た)いている空間の事です。いいかえれば、火を焚いているところに人々が集まり暮している場所の事です。人間が、他の動物と根本的に違うのは、「火」を支配する事ができた事です。火には四つの効用があつて、動物から食糧を守る「防衛(ぼうえい)」、調理やお湯を沸かす「熱加工」、寒さをしのぐ「暖房」、そして夜の暗闇を照らす「照明」です。暗闇を照らす明かり、鍋をあたためる「いろり」など、「火」のある場所に家族が集う、これが本来の家庭の姿ではないでしょうか。江戸時代末期の国学者である橘曙覧(たちばな あけみ)は、

「樂(たの)しみは、妻子むつまじく、打ち集い、頭ならべて、もの食ふ時」という和歌を残しています。ほのぼのとした一家団欒(だんらん)の光景が浮かびますね。最近、「家族のない家族」という言葉を耳にしますが、一体何のことでしょう。一つ屋根の下に暮らしながら、心の通い合う事のない家族の事だそうですね。やはり、「団欒(だんらん)」「同居(まとい)」といった、心も照らされ温まるのが、「家族」本来の姿のような気がします。

◇我々の御先祖様は、身も心も晴れ晴れと幸せの多い暮らしを望まれ、その為には、「被(は)らい」、身を清める事を大事にしました。しかし、人間の力だけでは及びませんので四つ力の助けを必要としました。それは、「塩」と「火」と「水」と「祈り」です。前述した塩と火には、身を清める力もあると考えられていました。私供は、早朝、拝殿のとびらを開けたら、早速、灯明(とうみょう)のスイッチを入れ、神饌所では、「米・酒・塩・水」の神様へのお供え物を調えます。塩釜神社の例祭の奉仕を終えて、「米塩の資」の大切さ、一家団欒の尊さに思いを致しました。

今日の夕食も、藤の花にまつわる話で、むつまじく過(こ)したいものです。御自愛を祈ります。

# 夏越祭齋行

(七月二十九日(木)前夜祭 / 三十日(金)御神幸祭)

## 前夜祭 七月二十九日(木)

### ◎午後五時より前夜祭

#### (大祓式並びに菅拔神事)齋行

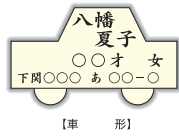
大祓式とは、毎年(六月と十二月の末日)二回、全国の神社で執り行なう大切な神事で、日常生活において、知らず知らずのうちに犯してきた心身の罪穢れを祓い清め、神様の御心にながう清く明るい正しい生活を続けようという日本の伝統的信仰であります。



人形(※右図)に氏名・年齢・男女の別を記入(※車形の場合は、車のNo.プレートも記入)

し、息を三回吹きかけ、これにより人形はその人の分霊が宿り、大祓式(おおはらえしき)の当日に神職がお焚き上げ(又は、それに準ずる行為)することにより、半年間の生活の中で気付かぬ内にその方の身に付いてしまった罪や穢れが悉く祓い清められるという神事です。

※人形並びに車形を社頭にて頒布致しております。お気軽にお申出下さい。



夏越祭・菅拔神事とは、酷暑の夏を前に、カヤとヨモギで作られた輪をくぐり、無病息災をお祈りするお祭りです。当宮においても茅の輪を設けます。願いを込め「茅の輪くぐり」をいたしましょう。

カヤとヨモギには、左記のような意味があります。

※ヨモギ：薬草の一種。又、

ヨモギが生い茂るが如くに、一家の益々の繁栄を祈る。



## 御神幸祭 七月三十日(金)

### ◎午前七時より本殿祭・発興祭齋行

※煙火の合図により午前八時御神輿出発

彦島各町内におみこしをお駐めし、会社、工場を始め皆様方のご安全、ご繁栄を祈願するお祭りです。

御神幸祭の順路時刻表(※下記)をご参照の上、おみこしにお参り、ご参拝いただきまして、平成二十二年下半期の更なる安全と幸せを祈念されますようご案内申し上げます。

尚、午後三時よりは、海士郷町の彦島漁港より御座船(\*二艘の連結船)に、おみこしをお載せして、彦島大橋下を通過、西山海岸沖を経由、西山町の南風泊分港に至る区間、西日本最大規模の海上渡御が行われます。

毎年、海上渡御には県内外の多くのアマチュアカメラマンの撮影姿が見受けられます。



## 豆知識 「祓い」って?

神道における罪穢念いわゆる、天津罪(あまつつみ)素戔嗚尊(スサノオ)ノミコトが高天原で犯した人間的な行為(国津罪)につつまし病氣や災害(罪や穢れ、災厄)などの不浄を心身から取り除くための神事。一般的に祓の神事を行うことを修祓(しゆはつ)といいます。

神前において祈り、祓詞(はらえことば)を奏したり、財物などを祓物として抛出させることで、その罪や穢れを購(か)わせた。また、七〇二年大宝律令により、大祓が国家儀式として宮中祭祀(行事)にて執行されるようになりました。

日本人は古来より、清らかさを重んじ、常に身も心も清める慣習があり、罪を犯してしまつた事、穢れに触れてしまつた事への反省を怠りません。これこそが人間のありのままの姿ではないでしょうか。

祓詞に「禊祓(みそぎはら)え」という詞がありますが、これは「古事記」「日本書紀」にある伊弉諾尊(イザナギノミコト)が黄泉国(ヨミ)に行き、死の穢れに触れたために、筑紫の日向の橋の小門の阿波岐原(現在の宮崎県)の河原で身をすすぎ洗い清めた行為を指し、祓の起源とされています。ちなみに、現在神社の手水舎で手と口を清めることも禊祓であります。

## 夏越祭御神幸順路と予定時刻

本社御発興 → 正面鳥居左折 → 三井化学内 → 三井化学前信号を左折 → 十二苗祖墳墓 → 卯月峠經由本村四つ角を右折 → 8:00 8:05 8:20 8:25  
 後山ナカハラプリンテックス倉庫前に入り進行 → みやぎ理容院を右折 → 南国マンション横左折 → 県道を横断 彦中下を上る → 関門トンネル上を右へ → 塩谷公園横を通過 福浦2町へ入る → 日ポリ産業前 → 山口三菱自動車角右折進行 → 金刀比羅宮 8:40 8:50  
 → 関門海峡フェリー前 → 日本歯科薬品前 → 福浦橋を渡り塩浜へ → 塩浜公民館前 → サンデン彦島営業所内 → 大通りを進行 9:00 9:05 9:10 9:20  
 県道横断向井町を経由 山中町民館前引き返し桜ヶ丘入口より峠を越し弟子待徳岡商店前を左折進行 → 日本グリーン昭和八幡前引き返し → 弟子待町民館前 → 弟子待を出て 弟子待保育園を下り右折 → 村田漢方薬局前左折進行 → 角倉小学校角左折 9:45 10:00  
 なかべ学院下を通り県道に出て右へ → 福浦山銀前信号を右へ → 杉田信号を右に進行 → 三菱至誠寮前を左に上り江の浦8丁目中通を進み県道に出て右折 → 下関菱重興産前 → 三菱下船工場内 → 江の浦町民館前 → サンセイ下関工場内 10:45 10:55 11:00 11:15 11:40 11:55

### 昼食(於、本村公会堂 TEL266-2219)

出 発 → 老町 → 貴布禰神社階段下 → 海士郷恵比須神社前「彦島漁協にて海上渡御準備」出 船 ~~~~ 漁港内一周 ~ 14:00 14:10 14:25 15:00  
 ~~~ 小戸口、彦島大橋下を抜け ~~~ 西山海水浴場沖を通過 ~~~ 南風泊魚市場岸壁に上陸 → 魚市場前 南風泊漁協前 15:35 15:45 15:50  
 → 県道右折竹の子島に渡り 関門造船前引返し → 西山公会堂前 → 彦島製錬 → M C S → 県道右折進行 → 西山口信号を直進 16:10 16:30 16:40 16:45  
 → 神社前 キャボットジャパン引き返し → 荒田、絞バス停車前を左へ上り旧道を進行 → 彦島豆腐工場前を通り県道を右へ → 16:50  
 サンリブ彦島店 → 本社御還幸 17:10 17:15

~~~~~ : 修祓(一旦停止)箇所      ~~~~~ : お旅所(祭典、小休止)箇所

社務日誌抄

—平成二十二年一月～六月—

▼睦月(二月)

- 一日 初太鼓 歳旦祭
- 三日 元始祭



七日 山口銀行彦島はってんク

ラブ正式参拝

十一日 六連島八幡宮歳旦祭

成人祭

十五日 どんど焼き

二十二日 三菱重工業(株)指定店会正

式参拝

▼如月(二月)

三日 節分祭



どんど焼き



六日

初午祭(下関三井化学(株)彦島製錬(株))

十一日 紀元祭

建国記念日奉祝式典

十三日 横浜ベイスタース下関フ

アン集いの会 日本一必

勝祈願祭



二十一日 祈年祭



神道講演会



二十五日 六連島八幡宮祈年祭

二十七日 田の首八幡宮祈年祭

▼弥生(三月)

十日 福浦金刀比羅宮月次祭並

びに境内稲荷神社仮殿遷

座祭

十五日 南風泊恵比須神社例祭

二十一日 春分祭祖霊祭

神道会総会



▼卯月(四月)

三日 竹の子島金刀比羅宮例祭

前夜祭

四日 竹の子島金刀比羅例祭本

殿祭、御神幸祭



福浦金刀比羅宮境内稲荷

社初午祭

五日 下関雅楽会奉納演奏会

九日 六連島八幡宮荒神祭

氏子青年会 維蘇志会総会

日本グリース(株)下関工場

内稲荷神社例祭

舟島神社例祭

佐々木小次郎剣客慰霊祭



十八日

敬神婦人会総会

十九日 小型機船底曳網漁業協同

組合 大漁祈願祭

二十五日 彦島地区戦没者慰霊祭



二十九日 昭和祭



▼皐月(五月)

五日 子供祭

六日 塩竈神社例祭

早起会総会・研修旅行

十五日 福浦金刀比羅宮例祭前夜祭

十六日 福浦金刀比羅宮例祭本殿

祭、御神幸祭



▼水無月(六月)

十日 海土郷恵比須神社例祭

十二日 貴布禰神社境内稲荷神社例祭

十三日 奉賛会理事総会

三十日 大祓式

四季折々

～上半期の社頭風景～



# 新年御供米料奉献会社御芳名

〔\*順不同、敬称略〕

- (有)ステンレス工芸
- 末次ふとん店
- 下関唐戸魚市場(株)
- タナカ機工(有)
- 大久保本店
- (株)大庭工務店
- 農水フーズ(株)
- 高保工業(株)
- (有)エポック
- (株)彦島交通
- (株)山口銀行彦島支店
- (株)田原工務店
- 三菱重工(株)下関造船所
- (株)サントー
- 青木鉄工(株)
- キャボットジャパン(株)下関工場
- 彦島製錬(株)
- 日新リフレテック(株)
- (有)アブリバー
- (株)下関ユアサ建材
- 池田興業(株)下関支店
- (株)ユキテクノ
- (有)大神商店
- 西中国信用金庫西山支店
- (有)三宅商店
- (有)マルイチ彦島醸造工場
- 下関菱重興産(株)
- (有)アルマ
- (株)室田組
- (株)大伸運輸
- 日本グリース(株)下関工場
- 植田木材(株)
- 関門三協工業(株)
- 山口県漁業協同組合南風泊支店
- (株)広洋エレクトロリックス
- (有)大和工機
- (有)南国シテイタクシー
- みなと不動産
- 古賀産業(株)
- テラーしばた
- 山口県漁業協同組合彦島支店
- 岩原辰次
- 熊本敦子
- (株)ナカハラプリンテックス

\*御献納賜りまして厚く御礼申し上げます。  
 ありがとうございます。  
 更なる弥栄とご隆盛を  
 ご祈念申し上げます。

## 平成二十二年

# 節分祭御協賛御芳名

〔\*順不同、敬称略〕

- 平成二十二年節分祭にあたりまして左記の通り多大な御協賛を賜りました。
- (株)エム・シー・エス
  - キャボットジャパン(株)下関工場
  - 日本サイテックインダストリース(株)下関工場
  - ズードケミー触媒(株)下関工場
  - 三菱重工(株)下関造船所
  - サンセイ(株)下関工場
  - 日新リフレテック(株)
  - 下関唐戸魚市場(株)
  - 協立運輸商事(株)
  - 池田興業(株)下関支店
  - 下関菱重興産(株)
  - 西和建工(株)
  - ジャパンマリン(株)
  - (株)石原建設
  - 西中国信用金庫西山支店
  - (株)山口銀行彦島支店
  - (株)ナカハラプリンテックス



## 八幡宮と私

◎青木鉄工株式会社取締役会長 青木 昭雄氏

青木鉄工株式会社は本年五月二十日を以って創立六十五周年を迎えた。会長の青木昭雄氏は先代より社を受け継ぎ、社長となつてより四十一年間、現在に至る迄、社業を担つてこられた。その間、創業者、昭雄氏の父、昭雄氏本人、同子息(現社長、栄市氏)の四代に渡り、毎月一日に会社の神棚への祈り、祭祀を欠かず事なく勤めてこられた。月月初めの大目標を掲げ、目標達成への祈りを捧げる。予め達成を祝う予祝としての祭事を営み、その後は日々反省、奮闘努力において真の達成に向けて邁進すると云う、神の御心に叶う、誠の祭政一致の精神を實踐されているように思われる。当宮においても、八十二、典行、宜夫(現宮司)と三代に渡り、今に至る迄、毎月一日の月次祭奉仕に伺っている次第である。

社内には、中部長三郎氏(雅号「流石」)筆の社訓額を掲げておられる。その中に「企業は何よりも人にある」という一訓を拝見するに及び、青木会長の人付き合ひや活動力、人柄などを通して誠の心根が垣間見え、半世紀近くの間、脈々と社業が存続されている事も頷けることである。

八幡宮の関係においては、平成五年に氏子青年会として結成された維新会のチャーターメンバーであり、二代目の会長もお勤め頂いていた。全国氏子青年連合会の大会を下関引受で開催された折の会長であり、現在も礼子夫人ともども季節の祭事や会の活動にご尽力を頂いている。昨年十月、八幡宮御創祀八佰伍拾年祭が斎行され、これに御奉仕出来た事も大変嬉しく喜んでおられた。

又、昨年九月九日には、一日一労働の般若心経として、二十七年と四ヶ月七日の歳月を費やされた一万願の写経を成し遂げられた。この事からも、強い意志と厚い崇敬の念を窺い知る事が出来るのである。

天皇陛下の皇位継承の証である三種の神器の鏡は正直な心、勾玉は慈愛の心、劍は知恵を通り、それそれぞれであるが、その中でも、青木会長は正直を大切にしておられる。吉田松陰先生も説いておられる通り、正直とは、心を正しく、身体清浄にある事で、その上で神に奉仕するのである。ここにこの夫婦ともども正直に神棚に向かい、会社の安全、繁栄を祈る姿があり、その心で八幡宮の行事や地域社会のことに奉仕活動をしておられる。

二十年来、公私共に青木会長にお世話になっており、感じ入るところは大である。更なるご多幸ご隆昌を念じつつ本稿を閉じる。



## 〜巫女体験記〜

# 「神社奉仕で学んだ事」

永安 未佳



私は高校在学中、彦島八幡宮で正月臨時巫女の神社奉仕をさせて頂きました。小さい頃から「巫女さん」に憧れていたので、採用が決まった時はとても嬉しかったです。しかし、アルバイトの経験も無く、ましてや神社奉仕という初めての事で不安も一杯ありました。

大晦日の夜からご奉仕の始まりです。想像以上の寒さと緊張の中、震えながら御札や御守を頒布する授与所に立っていると、ご参拝の方々から「寒いけど頑張つてね」と励ましの言葉をたくさん頂いたり、困った時は宮司さんをはじめ、職員の方々や同じ臨時巫女の仲間が優しく声を掛けて下さり、温かい気持ちになりました。色々と貴重な体験をさせて頂き、働く事の大変さや楽しさがあった気がしました。

四日間という短い期間ではありましたが、この神社奉仕を通して学んだ事があります。自分の仕事に責任を持つ事と体調管理に気を付ける事です。任された仕事は、最後までやり遂げなければなりません。また、健康でなければ笑顔で対応できませんし、休んだりすると皆に迷惑が掛かります。

私は今年から、ご縁がありまして産土彦島にて社会人として働いています。辛い時もありますが、彦島八幡宮での巫女体験で学んだ事を忘れずに一生懸命頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、彦島八幡宮の皆様、大変お世話になりました。有難うございました。



# 兼務社めぐり

## 其の壱

### 六連島八幡宮

【創 建】 明和四(一七六七)年、幡生村八幡宮(現、下関市生野神社)より勧請。

【御祭神】 御祭神は応神天皇・神功皇后・仲哀天皇。

【社 格】 明治七(一八七四)年村社に列する。

【末 社】 春日神社(荒神社)

御祭神Ⅱ天児屋根命(アメノコヤネノミコト)・火産靈命(ホムスヒノミコト)。

【例 祭】 十月四日(宵宮祭)、五日(本殿祭・御神幸祭)〔特殊神事〕

\* 献湯祭(湯立神事)……例祭宵宮祭にて、本殿裏にて忌火で沸かした湯に藁(わら)の輪飾に青竹に挟んだ人形(ひとかた)を四体立て、御幣で掻き混ぜた後、柄杓にて一杯すくい神前に献湯する。神事終了後この神湯を戴き、無病息災を祈る。

\* 戸別祝い……歳旦祭、夏越祭、例祭の年三回、島内約四十軒の氏子宅に神職が赴き、笹の葉の一枝にてお清めをし、家内安全祈願祭を執行する。



◀本殿

▼湯立神事



六連島全島



## 其の弐

### 田の首八幡宮

【創 建】 明徳二(二三九一)年、彦島八幡宮の御分霊を勧請。

【御祭神】 御祭神は応神天皇・神功皇后・仲哀天皇・仁徳天皇。

【社 格】 明治七(二八七四)年村社に列する。

【例 祭】 十月十五日(宵宮祭)、十六日(本殿祭・御神幸祭)

※近年は例祭日に最も近い週末の土曜日、日曜日に斎行。

【境 内】 下関市に鎮座する御社としては最南端に位置する。関門海峡を挟み対岸に北九州市を望む眺望は風光明媚で、夜景のスポットとしても取りあげられている。



本殿



大鳥居



御旅所から見る対岸の北九州市門司区

# 田の首町と八幡様

田の首八幡宮との神縁

田の首八幡宮 総代理長 安田 雅之

彦島に住んでいる方の大半が田の首の地に八幡様の社があること、又どこにあるか知っていないのではないかと推察しています。用事でもない限り彦島のはずれのこの地に行く事もないので当然かもしれません。

さて、田の首と云う地名、一度聞ければなんだか忘れられない地名ですよ。この地名、一つは田の首の浜に「生坂の瀬」マナイタの瀬があり、海賊どもの処刑場があった。これより連想される説。二つは、田の首の泥田に毎年冬になると鶴がやって来た。鶴は「たづ」とも呼び「田鶴の首」が転じて「田の首」になったという説。三つは、田の首八幡宮のある丘が突き出して、ちょうど亀の首のように見えたので「亀首」といつていたのが訛って「田の首」となった等種々由来がある様です。

田の首八幡宮は、南北朝時代の明徳二(一三九一)年、彦島八幡宮の末社として建立されたと記録がある様ですが彦島八幡宮が一五九九年の創建なので、その後一八五五年壇の浦源平の戦いで平氏が敗滅して凡そ二百年後にどの様な意図があったのか、戸数はいかに程あったのか計り知れない事が多いですね。お宮の場所も昭和四十三年現在の場所に遷座されましたが、其の後、向井小学校が建ち、県道がすぐ下を通り向井町、山中町に抜けるバス通りになっています。

昔は、貴船山(現在の彦島南公園付近)の山頂にあり、海に面した八メートル程の崖から門司、大里、小倉方面が見渡せる絶好の位置に在り、子供の頃にはこの場所で行楽場として遊んだものです。

昭和十二年に林兼造船第三工場が本村より進出して来てお宮に行くには第一、第二の鳥居を通り守衛所の横から広い階段を登りましたが、その両側は松の木々が繁つていて厳かな感じがしたものです。

昭和四十年代に入り林兼造船も大洋漁業の漁船建造から大型商船にと船型が大きく変わった事もあり船台の拡張の必要が生じ、そのとばかりを受けお宮も仕方なく現在の場所に直線にして三〇メートル近く移動したものです。社も鳥居も大方のものは移設していますが、昔と比べて規模が小さくなった様です。田の首八幡宮の取り仕切りも代々の総代が行っていましたが時代の流れで祭り等で人手の確保が難しくなった為、平成十年に自治会に運営を依頼され当時退職して自治会の副会長をしていた私が推され経験のある人が全面的に補佐して貰う事を条件に総代長になり、その後総代の役職を続けて今日に至っています。

氏子四〇〇戸の社として彦島八幡宮柴田宮司様に祭司全てをお願いしています。当初は不安ばかりの出発でしたが、色々な行事に参加させていただき「みえないもの大切さ」を知り、何事も皆で力を合わせれば何とかなる事を学んだ次第です。

これからも「朝に祈り、夕べに感謝」の敬神生活を中心ながら田の首八幡宮の発展と地域社会の興隆の為に努力申し上げたいと考えております。



### 七五三参拝の御案内

七五三参拝とは、三歳、五歳、七歳と成長の節目に近くの氏神様若しくは崇敬神社に参拝して無事成長したことを感謝し、これからの将来の幸福と長寿をお祈りする人生儀礼の一つです。

左記の通り、今年七五三をお迎えになるお子様を御家族の方共々にお祝い申し上げ、お守り、千歳飴、知恵おこし、おもちゃをご用意いたしております。

#### ▼三歳 平成二十年生まれの男子・女子

※古くは髪置と言ひ、頭髮を伸ばし始める歳です

#### ▼五歳 平成十八年生まれの男子

※古くは袴着と言ひ、袴を着用し始める歳です

#### ▼七歳 平成十六年生まれの女子

※古くは帯解と言ひ、大人の帯を用い始める歳です

### お食事・仕出しの弁当は お任せ下さい

#### 彦島八幡宮会館「瑞鳳殿の御案内」

お友達やご家族との会食、披露宴、新年会、忘年会、歓送迎会、各種懇親会、年祭・法要等全てに対応しております。仕出し等の各種弁当もご用意できます。ご予算献立等詳細はご連絡下さい。完全予約制ですので予めご了承下さい。

#### (予約センター連絡先)

☎0831-33410711

※社務所にも受付けておりますのでお気軽にご相談下さい。

\*洋ホール二〜一〇〇名様まで対応

\*和室十二畳 ※六畳二部屋  
\*和室二十畳 ※十畳二部屋



### 日本の伝統継承へ

〜神道における最上の「産霊(むすひ)行爲」

#### ● 神前結婚式のご案内

美しく雅やかな結婚式を...

神前にて共に生きることを誓う、人生における最も重要な儀礼を、神聖な社殿で執行してみませんか。

披露宴会場も隣接の神社会館「瑞鳳殿」にて挙行できます。

※詳細は社務所までお問い合わせ下さい。



### とこわか講演会の御案内

(毎月最終日曜日)

彦島八幡宮では、毎月最終日曜日《午後三時〜四時頃》にとこわか講演会を開催しております。

「とこわか」とは「常若」と記し、常に若々しく常に瑞々しくありたいと願う永遠性を求める神社神道の理念のことで、どなた様でもご参加できます。どうぞお気軽にお参り下さい。

#### 【内容】①宮司講演

\*毎月宮司自ら編集発行するミニ新聞「宮司プレス」の読み聞かせを中心に講演

#### ②茶話会

\*お茶とお菓子にて直会(歓談)し、質疑応答や参加者相互の親睦を深める



### 祭事暦 《下半期の祭典行事予定》

\*毎月二十一日：朝 粥 会  
\*毎月最終日曜日：とこわか講演会

#### 【文月】七月

六連島七社祭  
天満宮例祭(竹ノ子島町)  
六連島八幡宮夏越祭  
田の首八幡宮夏越祭

#### ▼二十九日〜三十日

彦島八幡宮夏越祭  
(\*西日本最大規模の海上渡御)  
恵比須神社夏越祭(海士郷町)

#### ▼三十一日

まほろば学級(彦島八幡宮)  
若宮神社例祭(彦島八幡宮境内)  
※両日とも平家踊りがあります

#### ▼八月

貴布禰神社例祭(老町)  
彦島八幡宮神道会秋季祖霊祭  
※宗旨が神道家のみたま祭

#### ▼九月

二十三日  
神無月 十月  
四日〜五日  
九日〜十日  
十五日  
十六日〜十七日

六連島八幡宮例祭  
田の首八幡宮例祭  
舞子島八幡宮例祭  
彦島八幡宮例大祭  
(\*山口県無形民俗文化財  
「サイ上り神事」)



#### ▼十七日

神嘗祭当日祭  
明治祭  
七五三祭  
新嘗祭

#### ▼二十三日

恵比須神社(海士郷町)祈漁祭  
※通称「ボラ祭」  
大注連縄奉製(彦島八幡宮・福浦金刀比羅宮)

#### ▼二十五日

天長祭  
正月臨時巫女奉仕者説明会  
大祓式  
除夜祭

### 朝粥会の御案内(毎月二十一日)

彦島八幡宮では、毎月二十一日《午前六時三〇分〜七時二〇分頃》に朝粥会を開催いたしております。

彦島のまほろば(良き所、美しい所の意)で、清々しい朝をお過ごしになられてみてはいかがでしょうか。

どうぞお気軽にお参り下さい。

#### 【内容】①本殿にてご祈願祭を斎行

(\*誕生月該当者は全員玉串奉奠)

#### ②宮司講話

#### ③会館瑞鳳殿にてかゆを食す

【初穂料】お気持ちで結構でございます。

### 編集後記

お陰をもちまして社報「産土」第三十九号発行の運びとなりました。ありがとうございます。

昨今のマスコミ報道をみますと防衛、防災、防疫といった危機管理行政の範疇が犯されるニュースを目にし、事がありまじく、諸外国から「安全な国、日本」と評されたかつての情勢とは相反します。由々しき事感：国家大事な時こそ安全な国づくりの為、国政に携わっておられます方々の政治(まつりごと)に対する姿勢と奮闘に期待してやみません。

さて、前置きが長くなりましたが、社報発行日の七月一日は昭和三十五年より「国民安全の日」に制定されています。前述した安全とは些か解釈が異なりますが、暑さで気の弛みかちなこの時期に事故が多発する所以がそうです。

愈々、盛夏到来。気を引締め、安全安心な生活を送るよう心掛けねばなりません。その為には、やはり只管に日々お祈りすることではないでしょうか。祈り拝し、自分自身を律し省みる。この繰り返しです。我々神職も日毎に皇室國家・國民は勿論、皆様方の安寧を祈念しつつ祭祀(まつりごと)御神勅の正道を進んでまいります。

悠久の太古から継承されてきた先人たちの教え、一日毎目覚めるとともに先ず神様をまつり心を清める。まさに日本人の原点です。この実践こそが安全を暮らしに繋がることでしょう。

暑さ増していくこの頃、これも四季の情緒、自然の恩恵。暑さという試練の恵みも受け入れて、どうぞご自愛下さい。

(山本)

### 編集・発行 彦島八幡宮社務所

下関市彦島迫町五丁目十二番九号

TEL 〇八三二二六六一〇七〇〇

FAX 〇八三二二六六一五九一一

ホームページ <http://www.hikoshima-gu.net>

平成二十二年七月一日  
印刷・ナカハラプリンテックス